爆同第55回定期総会
(日時)5月23日(土)
午後1時30分
(会場)大和市生涯学習センター

厚木爆同

【発行】
厚木基地爆音防止期成同盟
発行責任者　大波修二
事務所　大和市桜森3-5-3
フォント1F
TEL 046-240-7450
FAX 046-261-5615
bakudou@kanagawa.email.ne.jp

高まるオスプレイの厚木飛来
辺野古弾圧を許さない

厚木基地の動向

厚木基地では昨年11月25日、原子力空母ジョージ・ワシントンが横須賀に帰港以来、艦載機が連日訓練を行い、昼夜を問わず激しい爆音をまき散らしています。しかも離陸後すぐに機体を傾け、急激に旋回する飛行が目立ち、事故の不安も高まっています。

空母ジョージ・ワシントンは5月頃、核燃料棒交換のためアメリカに帰る予定ですが、今秋（8～9月頃）にはその後継として同型のロナルド・レーガンが配備され、横須賀を母港とする空母の交代は5隻目となります。

昨年7月以降、MV-22オスプレイの厚木基地飛来も連続しています。7月15日1機、8月18日4機、10月25日に1機、11月6日に3機。

米軍は地元自治体に「東富士・北富士演習場での訓練のため立ち寄る」と通告してきましたが、訓練時間以外は連日連夜、厚木基地に駐機し、さらに東日本で初めて市街地上空での夜間飛行も行いました。

厚木基地北側でオスプレイ監視行動（２月２４日）

オスプレイの飛来通告に対し、大和・綾瀬両市長から「飛来は認められない」との抗議が出されましたが何ら釈明することもなく、在日米軍司令官は神奈川県知事との意見交換会で「オスプレイの訓練はすでに常態化しており、いちいち飛来情報を提供するつもりはない」と地元の声を無視し続けています。

リムピース（基地監視団体）の調査結果では、２０１４年の厚木基地でのオスプレイの離陸は22回。これと関連して米海兵隊空中給油機などの飛来も増えています。

また米海軍が、空母艦載輸送機C-2Aグレイハウンドの後継機として、オスプレイを原子力空母に搭載するとアメリカで発表しました。C-2Aは航行中の空母と陸上基地をつなぐ輸送任務についていますが、オスプレイが後継機となれば厚木基地への飛来・常駐の可能性が高まります。

さらに昨年11月、海上自衛隊の輸送機C-130R、2機が配備されるなど、厚木基地の機能が今後も一層強まることが危惧されます。

辺野古新基地建設反対の抗議行動に参加（11月5日）

辺野古は私たちの問題

政府は沖縄の民意を無視し、米軍普天間基地の名護市辺野古への移設にむけて、中断していた辺野古沖での海底ボーリング調査を再開しました。「辺野古新基地建設反対」の沖縄県民の民意は、昨年1月の名護市長選挙、11月の沖縄県知事選挙、12月の衆議院議員選挙で明確に示されています。

にもかかわらず、安倍政権は沖縄県民の代表である翁長知事に会うことさえ拒み、辺野古移設を力で押し切るため、沖縄県民をはじめ新基地建設に反対する市民に対し、暴力的な弾圧を強めています。

政府自らが民主主義のルールを破壊し、反対する者を力で押しつぶす。こうした権力の暴力がまかり通れば、日本の平和運動、市民運動は致命的な打撃を受けることになります。厚木爆同は半世紀以上にわたり「平和で静かな空」を願い闘いを続けていますが、「もし私たちの街で沖縄と同じことが起きたらどうするか」・・・辺野古の問題は沖縄だけの問題ではなく、私たち自身の問題です。

統一自治体選挙
爆同推薦候補者

◎相模原市会選挙　4月12日投票
◎大和・綾瀬・藤沢市会選挙　4月26日投票

相模原市議会(南区)(現・6期)

金子豊貴男
(社会民主党)

大和市議会(現・7期)

大波修二
(無所属)

綾瀬市議会(現・2期)

二見　昇
(無所属)

藤沢市議会(現・1期)

脇　れい子
(無所属)

爆同新会員を囲んで 学習と親睦深める

厚木爆同は組織強化にむけ、会員拡大に取り組んできましたが、昨年45世帯の方々が新会員として加入されました。この新会員の皆様を歓迎し、ともに力を合わせて活動していくため、2月8日、大和市生涯学習センターで厚木爆同「新会員歓迎会」を開催しました。

「爆同の歴史と課題」について講演する大波委員長

開会にあたり、荻窪書記長が歓迎挨拶を行い、大波委員長が「厚木基地の情勢」や「厚木爆同の歴史と課題」について講演し、学習を深めました。

その後、交流会では役員と新会員が会食しながら自己紹介を行い、懇親を深めました。新会員からは「爆音が年々ひどくなっている」「市役所に爆音の苦情電話をしても、『わかりました』というだけ。皆さんと力をあわせ頑張りたい」など力強い決意も語られ、有意義な歓迎会となりました。

支部からこんにちは！

大和北2支部

爆同の方針にも「組織の充実・強化」が盛り込まれています。50数年継続している爆同の活動も、会員が高齢化しており弱体化している様に思えます。若く新しい会員の発掘と加入の促進を図り、活動に参加していただき、大きな声につなげていかなければなりません。爆同も会員の学習会などを進めていますが、私事と重なったり、時間帯が合わなかったりで、なかなか参加することができません。

また一方では支部も充実強化しなければなりませんが、最近、支部から行事への参加要請がほとんどありませんが、支部の組織はどうなっているのでしょうか？　何か行事の計画を立案しているのでしょうか？

本部だとか支部だとか言ってはいけないのが市民運動であり、加入している会員本人が進んで活動に参加しなければいけないのですが、組織として支部がある以上、支部からの連絡や活動への参加要請があってしかるべきだと思います。

もっと身近なコミュニケーションを

爆同の会報が配られるだけでは、役員と会員の間が遠のいてしまう様に感じられます。もっと身近な組織としてコミュニケーションがとれないものかと最近特に思います。

いざ何か行動を起こすときは、数が多いということは相手に与える影響も大きいと思います。そのためには日頃の支部内のコミュニケーションが大切です。爆音で一番被害を被っているのは大和ですし、いつ落ちるかわからない米軍機の恐怖におののいているのも大和です。高齢化した会員と組織ですが、時代に沿った新しい感覚で、新しい運動の展開をお願いし、私も爆同運動に積極的に参加して支部内のコミュニケーションを強化したいと思います。

（大和北2支部会員）

ここが気になる

千カイリ・シーレーン防衛の謎

この機関紙前号の本欄で既報したように厚木基地には多数のP3C哨戒機が配備されている。最近は新手としてP1ジェット哨戒機が加わった。

これらの哨戒機の目的は「千海里シーレーン防衛」と称し、わが国の通商路を脅かす潜水艦から航路を防衛すると理解されてきた。このシーレーン防衛構想と対潜哨戒機の大量配備は一九八一年五月、当時の鈴木善幸首相の訪米時に決まった。千カイリ・シーレーン防衛に航続距離に限度のあるP3Cを使うとすれば、産油地から日本本土までの長い航路の途中のどこかにも基地を設けねばならないはずであるが、今日にいたるまで海賊対策の名目でアデン湾ジブチに二機のP3Cの配置が報道された以外その気配はない。

本当の目的はアメリカ本土防衛

この謎に答えを示したのは外務省の元外交官（国際情報局長）孫崎享氏の著書「日米同盟の正体・迷走する安全保障」である。同氏は「多くの日本人はP3Cを保有したのは石油を主体とする補給海路の確保のためであると理解している。だがそれは間違っている」と指摘している。

P3C配備は集団的自衛権行使か？

その根拠として次のようにのべている。（要約すると）「二〇〇一年から米国のNSC日本朝鮮担当部長などを歴任したマイケル・グリーン氏は同氏の論文「力のバランス」で次のように説明している。即ち、米国を標的とする核兵器の一本である潜水艦のためにソ連がオホーツク海を海の要塞として使用していることに、米国海軍はますます懸念をつよめていた。ワシントンを訪れた鈴木は一〇〇〇カイリの防衛を意味することを宣言した。この距離はオホーツク海のソ連海軍力を封じ込めるに十分だった。おそらく、鈴木は自分の言った言葉の意味を十分に咀嚼（そしゃく）していなかった。

この同盟はソ連に対するアメリカのグローバルな軍事封じ込め戦略の中心的な構成部分となった。マイケル・グリーン氏による我々は知らぬ間に集団的自衛権行使に踏み込まされていたことになる。

（平岡幸雄）

「全国基地連」結束し 爆音解消求め政府交渉

全国基地爆音訴訟原告団連絡会議（厚木・横田・新横田・小松・岩国・嘉手納・普天間各原告団、厚木爆同）は3月3日、外務省・防衛省・環境省に対し、「基地爆音被害を解消し、基地周辺住民の生活改善を求める要請書」を提出し、交渉を行いました。

防衛省に要請書を渡す藤田全国基地連代表

主な交渉項目として、①基地運用の全国一律基準の設定、②日米合同委員会合意事項の遵守、③欠陥機オスプレイの配備・運用の中止、④普天間基地の即時無条件撤去と辺野古・高江の新基地建設即時中止、⑤全国の基地訴訟判決を尊重し爆音被害を軽減すること―等を強く要請しました。

各省とも「日本の防衛・外交・安全保障上、飛行訓練や基地は必要だが、周辺住民の被害を最小限とするよう配慮する」と従来の姿勢に終始し、前向きな回答は得られませんでした。

しかし、全国7原告団が結束し、国会議員の協力を得て独自に政府交渉を行ったことは、全国基地連の新たな運動の一歩となり、今後も引き続き要請行動を行っていくことを確認しました。